

2015年10月30日

各位

DIAMアセットマネジメント株式会社

DIAMアセットマネジメント、
確定拠出年金（DC）向け投資信託
「投資のソムリエ＜DC年金＞リスク抑制型」を新規設定

DIAMアセットマネジメント株式会社(代表取締役社長:西 恵正)は、確定拠出年金(DC)向け投資信託「投資のソムリエ＜DC年金＞リスク抑制型」を2015年10月30日に設定、運用を開始いたします。

この「投資のソムリエ＜DC年金＞リスク抑制型」(以下、当ファンド)は、基準価額の変動リスク^(注1)を年率2%程度^(注2)に抑えながら安定的な基準価額の上昇をめざすバランスファンドです。当ファンドは、投資環境の変化をいち早く察知し、資産配分を機動的に変更することで、大きな損失を避け、安定的なリターンを得ることをめざします。

当社では、同様のコンセプトで基準価額の変動リスク^(注1)を年率4%程度^(注2)に抑えながら安定的な基準価額の上昇をめざす「投資のソムリエ＜DC年金＞」を2013年10月31日に設定し、ご提供しております。今般、お客様のリスク許容度に応じてお選びいただけるよう「投資のソムリエ＜DC年金＞リスク抑制型」を設定いたしました。

社会・経済環境等の変化に伴い、確定拠出年金(DC)等を活用した自助努力による資産形成の重要性は、ますます高まっていくものと考えられます。

当社は、今後も中長期的な資産形成に資する金融商品の開発、ご提供に努めてまいります。

以上

・資金動向、市況動向によってご案内の運用ができない場合があります。
 (注1) 価格変動リスクの大きさを表し、この値が小さいほど、価格の変動が小さいことを意味します。
 (注2) 各数値は目標値であり、常にリスク水準が一定であること、あるいは目標値が達成されることのいずれを約束するものではありません。また、各数値は各ファンドの長期的なリスク水準の目標を表すものであり、各ファンドがそれぞれ年率2%程度、年率4%程度の収益を目標とすることを意味するものではありません。各数値が達成されるかどうかを問わず、実際の運用成績がマイナスとなる可能性があります。

お申込みにあたっては、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)を必ずご覧ください。

ファンドの費用

	投資のソムリエ<DC年金> リスク抑制型	投資のソムリエ<DC年金>
基準価額の変動リスク	年率2%程度 ^(注2)	年率4%程度 ^(注2)
投資者が直接的に負担する費用		
購入時手数料	ありません。	
信託財産留保額	ありません。	
投資者が信託財産で間接的に負担する費用		
運用管理費用 (信託報酬)	ファンドの日々の純資産総額に対して 年率0.6372%(税抜0.59%)	ファンドの日々の純資産総額に対して 年率1.188%(税抜1.10%)
	ファンドの運用管理費用(信託報酬)は、日々の基準価額に反映され、毎計算期末または信託終了のときファンドから支払われます。	
その他費用・ 手数料	<p>その他費用・手数料として、お客様の保有期間中、以下の費用等がファンドから支払われます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組入価証券等の売買の際に発生する売買委託手数料 ・信託事務の諸費用 ・外国での資産の保管等に要する諸費用 ・監査法人等に支払うファンドの監査にかかる費用 等 <p>監査費用は毎日計上され、毎計算期末または信託終了のとき、その他の費用・手数料等は都度ファンドから支払われます。 これらの費用は運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことができません。 上場投資信託(リート)は市場の需給により価格形成されるため、上場投資信託(リート)の費用は表示しておりません。</p>	

当該費用の合計額、その上限額および計算方法は、運用状況および受益者の保有期間等により異なるため、事前に記載することができません。

上記(注2)をご覧ください。

委託会社その他関係法人の概要

委託会社	DIAMアセットマネジメント株式会社 信託財産の運用指図等を行います。
受託会社	みずほ信託銀行株式会社 信託財産の保管・管理業務等を行います。 なお、受託会社は信託事務の一部につき資産管理サービス信託銀行株式会社に委託することができます。
販売会社	募集の取扱いおよび販売、投資信託説明書(目論見書)・運用報告書の交付、信託契約の一部解約に関する事務、収益分配金の再投資、収益分配金、一部解約金および償還金の支払いに関する事務等を行います。

投資リスク

各ファンドの基準価額は、ファンドに組入れられる有価証券の値動き、為替変動等により影響を受けますが、運用による損益は全て投資者の皆さまに帰属します。したがって、投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、下記の変動要因により基準価額が下落し、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。また、投資信託は預貯金と異なります。

<基準価額の主な変動要因>

基準価額の変動要因は、下記に限定されるものではありません。

資産配分リスク	各ファンドの実質資産配分において、収益率の悪い資産への配分比率が大きい場合、基準価額が下がる場合があります。
株価変動リスク	各ファンドは、実質的に株式に投資をしますので、株式市場の変動により基準価額が上下します。
金利リスク	一般的に金利が上昇すると債券、リートの価格は下落します。各ファンドは、実質的に債券、リートに投資をしますので、金利変動により基準価額が上下します。
リートの価格変動リスク	リートの価格は、リートが投資対象とする不動産等の価値、当該不動産等による賃貸収入の増減、不動産市況の変動、景気や株式市況等の動向などによって変動します。各ファンドは、実質的にリートに投資をしますので、これらの影響を受け、基準価額が上下します。
為替リスク	各ファンドは実質組入外貨建資産について、弾力的に対円での為替ヘッジを行います。為替ヘッジを行わない場合、為替変動の影響を受けます。このため為替相場が当該実質組入資産の通貨に対して円高になった場合には基準価額が下がる要因となります。 為替ヘッジを行う場合、為替リスクの低減をめざしますが、為替リスクを完全に排除できるものではなく為替相場の影響を受ける場合があります。なお、実質組入通貨の直接ヘッジのほか、先進国通貨を用いた代替ヘッジを行う場合があります。その場合、通貨間の値動きが異なる場合が想定されますので、十分な為替ヘッジ効果が得られない可能性や、円と当該代替通貨との為替変動の影響を受ける可能性があります。また、為替ヘッジには円金利がヘッジ対象通貨の金利よりも低い場合、その金利差相当分程度のコストがかかることにご留意ください。
信用リスク	各ファンドが実質的に投資する株式・債券の発行者が経営不安・倒産に陥った場合、各ファンドが実質的に投資するリートが、収益性の悪化や資金繰り悪化等により清算される場合、またこうした状況に陥ると予想される場合等には、投資した資産の価格が下落したりその価値がなくなる場合があります。基準価額が下がる要因となります。

ご留意事項

- ・当資料は、情報提供を目的としてDIAMアセットマネジメント株式会社が作成したものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。
- ・投資信託は、実質的に株式、債券、リート等の値動きのある有価証券(外貨建資産には為替リスクもあります)に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、購入金額について元本保証及び利回り保証のいずれもありません。
- ・当資料はDIAMアセットマネジメント株式会社が信頼できると判断した情報により作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。
- ・当資料における内容は作成時点(2015年10月30日)のものであり、今後予告なく変更される場合があります。
- ・投資信託は、預金・保険契約ではありません。また、預金保険機構及び保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象にもなりません。
- ・投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。
- ・投資信託説明書(交付目論見書)は、DIAMアセットマネジメント株式会社のホームページでご覧になれます。

DIAMアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第324号

加入協会:一般社団法人投資信託協会/一般社団法人日本投資顧問業協会

ホームページ : <http://www.diam.co.jp/>

(2015-048)